

## 受給表現の扱い方

岡野喜美子

### I. はじめに

きょうは、LEARN JAPANESE-College Text (ヤング教授との共著)の中で、受給表現——物のやりもらいの表現——をどこでどう扱ったかについてお話ししたいと思います。元来、この教材はハワイ大学とメリーランド大学極東部での日本語学習者を対象として編著されたもので、これらの日本語学習者の特徴は、他の日本語学習者——留学生とかアジア系学生など——と異なり、日本への文化的関心が強い一方、語学力としては必ずしも高度な所まで行かない者がかなりあるということです。

LEARN JAPANESE-College Text は、これらの点を考慮に入れて作成された初級用教材といえます。つまり、文型的には易から難へ、表現的には必要最小限からより豊かなものへという語学教材としては当然の考慮をしながら、同時に言語に現われた“文化”的な側面を重視し、それを意識的に配列する試みをしてきたわけです。言語に現われた“文化”とは何かという厳密な定義づけは今は避けませんが、ここで扱おうとしているのはそのうちの待遇表現であり、またさらにその小部分をなす受給表現ということになります。ここで一言断わっておきたいことは、待遇表現を重視したということは必ずしも量的に多いということではありません。むしろ、大学生の使う日本語という観点から少なくしてあります。ただ外国人に対する日本語教育文法の立場から待遇表現をどう分析し、どこで教えるかを一つの課題として取り組み、仮説をたてたということです。

さらに、“文化”的側面について言うと、著者として、また教師として

の願いは、学習者が日本語の語学力を十分身につけることは勿論ですが、同時にたとえ日本語のことは、表現は忘れても日本語学習を通じて理解した日本人のものの考え方、発想法、人間関係のとらえ方などは忘れるものではないし、忘れてほしくないという発想にたって、語学学習の中の“文化”的な面を強調しようとしたわけです。初級日本語という、とかく実用的な skill としての面のみが強調されるきらいがありますが、ごく初歩の日本語教育にも文化の学習は見過ごせません。あとで見るように、LEARN JAPANESE では異例とも言えるほど早く受給表現を取り入れましたが、その三つの理由の第一は構文的に見て特定の助詞—だれに—なにをあげる、だれからもらうのように一との結びつきが強く、文型としてかなり基礎的なものであると判断したこと、第二には人間相互の間の物の授受自体が非常に日常的かつ基本的な行為であり、会話的にも必要度が高いこと、第三には、だれがだれに与えるかによって、あげる、やる、くれるなどが使い分けられるという言語的事実から、日本人の“文化”上下意識、うちそとの意識に触れることになり、複雑な日本語の待遇表現の一端をこのレベルで紹介する意義があると考えたことです。

以上で、LEARN JAPANESE-College Text で受給表現を早く取り上げるに至った考え方の筋道を理解して頂けたことと思います。

次に、この教材の中での受給表現の扱い方に触れる前に、初級用教材を受給表現について対照させ、参考に供したいと思います。

## II. 初級用教材における受給表現の扱い

ここでは、十一教材を取り上げ、元来どういう学習者を対象に作られた教材かによって分類してみました。

A. アメリカ人大学生用教材: LEARN JAPANESE-College Text, BASIC JAPANESE for College Students, ESSENTIAL JAPANESE, BEGINNING JAPANESE

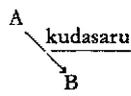
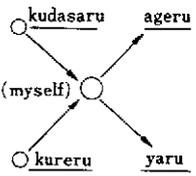
B. 留学生(主にアメリカ人)を対象とした教材: MODERN JAPA-

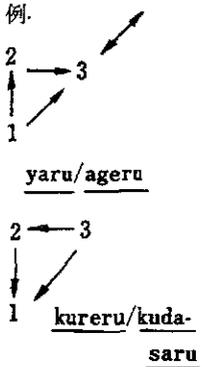
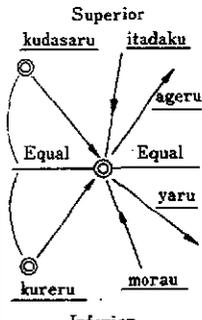
NESE for University Students

- C. 留学生(主にアジア系)を対象とした教材: NIHONGO NO HANASHIKATA, 日本語教科書初級
- D. 在日外国人を対象とした教材: BASIC JAPANESE COURSE
- E. 独習用教材: COLLOQUIAL JAPANESE IN FOUR WEEKS
- F. 独習用テープ教材: テック基礎日本語, INTENSIVE COURSE IN JAPANESE

これらの教材での受給表現の扱い方——どこでどう扱ったかなど——を次に表にしてみました。

教材名	項目	受給表現をとりあげている課	恩恵表現をとりあげている課	備考
(1) LEARN JAPANESE — College Text — (Young & Nakajima) 全 60 課		12 課 やる／あげる くれる もらう 以下説明のみ 12 課, 練習は 16 課 さしあげる くださる いただく 16 課 ください	16 課 てください  24 課 ないでください 39 課 てやる／てあげ る／てさしあげ る てくれる／てく ださる てもらう／てい ただく	待遇表現として、 また文型として 重視し、説明と 受給関係の図示 がなされている。 (92 から 98 ペー ジ参照)

教材名	項目	受給表現をとりあげている課	恩恵表現をとりあげている課	備考
(2) <b>BASIC JAPANESE</b> <b>for College Students</b> (Niwa & Matsuda) 全24課	5課 ください 16課 やる／あげる くれる／くださる もらう／いただく	5課 てください 16課 てやる／てあげる てくれる／てくださる てもらい／いただく	待遇表現として文型として重視し、説明と図示がなされている。 例. “A” gives to me “B”  I “B” give to “A” 	
(3) <b>MODERN JAPANESE</b> <b>for University Students, Part 1</b> (ICU) 全40課	16課 ください／ちょうだい 24課 やる／あげる くれる／くださる もらう／いただく	16課 てください ないてください てくださいませ んか てくれ 25課 てやる てあげる てもらい	文型として待遇表現として重視し、説明と図示がなされている。 例. (Superior)  (Inferior)	

教材名	項目	受給表現をとりあげている課	恩恵表現をとりあげている課	備考
(4) ESSENTIAL JAPANESE (Martin) 全10課	9課 やる／あげる／さしあげる くれる／くださる もらう／いただく／ちょうだいする	7課 てください 9課 てやる／てあげる てる てくれる／てくださる てもら	待遇表現として重視し、説明と図示がなされている。 例.  <p>2 → 3 ↑ 1</p> <p><u>yaru/ageru</u></p> <p>2 → 3 ↓ 1</p> <p><u>kureru/kudasaru</u></p>	
(5) BASIC JAPANESE COURSE (長 沼) 全50課	7課 ください(会話表現扱い) 13課 いただく(〃) 23課 あげる(〃) 26課 もらう(単語扱い) 31課 やる(〃) 40課 くれる／くださる(文型扱い)	5課 てください 33課 てもら 40課 てやる／てあげる てる てくれる／てくださる	40課に受給関係の説明と図がある。  <p>Superior</p> <p><u>kudasaru</u>    <u>itadaku</u></p> <p>Equal    Equal</p> <p><u>ageru</u></p> <p><u>yaru</u></p> <p><u>kureru</u>    <u>morau</u></p> <p>Inferior</p>	40課までは、受給動詞は単語扱いされている。

教材名	項目	受給表現をとりあげている課	恩恵表現をとりあげている課	備考
(6) 日本語教科書初級 (早大語研) 全40課	13課 やる(単語扱い) 14課 あげる くれる もらう 19課 ください いただく	14課 ください ないでください くださいませ んか  20課 てあげる てくれる てもらう 39課 てさしあげる てくださる ていただく	受給関係が文型的に提示されている。	
(7) BEGINNING JAPANESE (Jordan) 全35課	4課 ください  17課 やる/あげる くれる/くださる もらう/いただく	4課 てください 7課 ないでください 17課 てやる/てあげる てくれる/てくださる てもらう	恩恵表現を説明するために、受給表現がとりあげられている。受給表現のドリルはまったくない。	

教材名	項目	受給表現を とりあげている課	恩恵表現を とりあげている課	備考
(8) COLLOQUIAL JAPANESE in Four Weeks (小川・佐藤) 全28課	16課 やる／あげる くれる もらう	16課 てやる／てあげる てくれる てもらう てください		説明がすこしな されている。
(9) テック基礎日本語 I & II 全20課	3課 あげる(単語扱い)      13課 ください 19課 あげる くれる	5課 てください 8課 てくれる    19課 てあげる てくれる		あげるとくれるの 使い分けの説明だ けがなされている。

教材名	項目	受給表現を とりあげている課	恩恵表現を とりあげている課	備考
(00) Nihongo no Hanashikata (国際学友会日本 語学校) 全 60 課		13 課 ください            58 課 やる／あげる くれる／くださる もらう	30 課 てください ないてください くださいません か       59 課 てやる／てあげる てくれる／てくだ ざる てもらう	説明はなく、例文 のみ与えられてい る。
(01) INTENSIVE COURSE IN JAPANESE - Elementary Course - Part 1 & 2 (対外日本語教育 振興会) 全 50 課		10 課 ください            37 課 やる／あげる くれる／くださる もらう／いただく	16 課 てください くださいません か ないてください       41 課 てあげる てくれる てもらう	文型として待遇表 現として重視し、 受給関係の説明が なされている。

上記の表をまとめますと、大別して次の傾向が見られます。

- A. 受給関係を説明と図で比較的詳細に提示し、文型としても重視：  
LEARN JAPANESE-College Text, BASIC JAPANESE for College Students, MODERN JAPANESE for University Students
- B. 受給関係を説明と図で比較的詳細に提示、文型としての扱いは軽い：  
ESSENTIAL JAPANESE, BASIC JAPANESE COURSE
- C. 恩恵表現(行為のやりもらい)の方を重視し、受給表現(物のやりもらい)としては軽く扱い、恩恵表現の前おき程度に触れている：  
BEGINNING JAPANESE
- D. 受給関係を比較的詳細に説明し、文型としても重視しているが、図はない：INTENSIVE COURSE IN JAPANESE
- E. ほとんど文例の提示のみ：日本語教科書初級, NIHONGO NO HANASHIKATA, COLLOQUIAL JAPANESE IN FOUR WEEKS
- F. その他(部分的扱い)：テック基礎日本語

以上の傾向をまとめると、一、二の例を除いて、アメリカ人を対象とした教材の特徴がはっきり出てくるのがわかります。つまりアメリカ人向け教材では構文的にも待遇関係上でも具体的に、やる、あげる、くれるなどの使い分けを説明し、図示していることです。これは一つには、詳しい説明を要するほど学習者の母国語と日本語の文化的背景がちがうということ、ほかにはアメリカでの語学教授法—Drillを教室で行なう前に学生は教材の説明を自分で読むことによって文型、表現について基礎的な理解を得ておき教室での Oral Drill に備えるというやり方—に基づいていることと、対象がアメリカ人に限定されると、比較語学、比較文化がしやすくなり、説明のポイントもとらえやすくなるということだと考えられます。

## 2. どこで扱っているか

表に、それぞれの教材がどの課で受給表現を扱ったかを示しましたが、

いくつかの傾向にまとめると次のようになります。

- A. かなり初期(初めから5分の1あたり): LEARN JAPANESE
- B. ほぼ3分の1あたり: 日本語教科書初級
- C. ほぼ2分の1あたり: MODERN JAPANESE for University Students, BEGINNING JAPANESE
- D. ほぼ3分の2あたり: BASIC JAPANESE for College Students, COLLOQUIAL JAPANESE IN FOUR WEEKS, INTENSIVE COURSE IN JAPANESE
- E. ほとんど終わり近く: ESSENTIAL JAPANESE, BASIC JAPANESE COURSE, テック基礎日本語, NIHONGO NO HANASHIKATA

LEARN JAPANESE では、他の教材と比べてきわだって早い時期に受給表現を取り上げていることがわかります。この理由はさきに I で説明した通りです。

### 3. 何を扱っているか

いくつかある受給動詞のうち、初級教材となると、やはり限られたものしか取り上げられていませんが、それでも教材によって相当の出入りがあります。以下、LEARN JAPANESE で扱われた受給動詞を一応の目安として、他の教材での出入りを列挙してみます。

LEARN JAPANESE で扱った受給動詞: やる, あげる, さしあげる, くれる, くださる, もらう, いただく

- A. このうち、さしあげるがないもの: BASIC JAPANESE for College Students, BASIC JAPANESE COURSE, MODERN JAPANESE for University Students, BEGINNING JAPANESE, INTENSIVE COURSE IN JAPANESE
- B. ちょうだいするが加わったもの: ESSENTIAL JAPANESE
- C. くださる, さしあげるがないもの: 日本語教科書初級
- D. くださる, いただく, さしあげるがないもの: COLLOQUIAL

## JAPANESE IN FOUR WEEKS

- E. やる, さしあげる, くださる, もらう, いただくがないもの: テック基礎日本語

教材の中には、敬語的色彩の濃いものを意識的に除いたものや、シリーズとして未完と思われるものなどあって、同列に比較をすることはできないので、ここでは教材によって扱われているものが上記のように異なることの指摘にとどめたいと思います。(また、筆者の調べが足りず記載もれその他がある場合はご容赦願いたいと思います。)

### 4. 恩恵表現との関係は?

表の中に恩恵表現を入れた理由は、教材によって受給表現と恩恵表現を特に区別していないものや、恩恵表現を主に、受給表現は従にして少し触れている程度のもの、受給表現も恩恵表現と同格の扱いをしているものなど、取り上げ方に種々あることを示したかったからです。

受給表現と恩恵表現をそれぞれどのあたりで扱っているかを表に見てみましょう。

- A. 受給表現と恩恵表現を 27 課も離しているもの: LEARN JAPANESE
- B. 同じ課に受給・恩恵表現を扱っているもの: BASIC JAPANESE for College Students, ESSENTIAL JAPANESE, BASIC JAPANESE COURSE, BEGINNING JAPANESE, COLLOQUIAL JAPANESE, テック基礎日本語
- C. 受給表現から一課遅らせて恩恵表現を入れているもの: MODERN JAPANESE for University Students, NIHONGO NO HANASHIKATA
- D. 4 課~6 課遅らせて恩恵表現を扱っているもの: INTENSIVE COURSE IN JAPANESE, 日本語教科書初級
- 上に見る通り、LEARN JAPANESE はここでもユニークな取り扱い

をしていることがわかります。概して、他の教材では、受給表現を初級の中でもかなり高度な恩恵表現とほとんど同時に扱おうとしたがために、受給表現が必要以上に遅く取り上げられている傾向があるようです。Iで述べた三つの理由によって LEARN JAPANESE では受給表現を早く教えることにしたわけですが、一方、恩恵表現は構文的にも(あげる, やるなどの補助動詞的使い方)、意味的にも格段に理解と使用がむずかしいので、同時には扱えません。従って、結果的には27課分も離れて教えることになったのですが、これほど離す方がよいかというのは別の問題として残ります。

### III. LEARN JAPANESE における受給表現の扱い

#### 1. 構文的扱い

受給表現を構文的に見ると、常に“だれがだれに何をやる”とか、“だれがだれから(に)何をもらう”というように、受給を表わす動詞は、他動詞の中でも格助詞を多くとることが特徴的です。

やる, あげる, くれるを例にとれば、

$$\text{Giver} + \left\{ \begin{array}{l} ga \\ wa \end{array} \right\} + \text{Recipient} + ni + \text{Object} + o + \left\{ \begin{array}{l} agemashu \\ yarimashu \\ kuremashu \end{array} \right.$$

のように、連用修飾が多く、従って文が長いための言いにくさがあります。が、英語の direct object, indirect object をとる文にわりあいすんなりと一致するので構文上は英語国民にとって理解しやすいと言えます。このように、受給表現は長い文になることを除けば構文的に決してむずかしくはないのですが、やはり、待遇上の問題—上下の人間関係、うち・そのの概念といった“文化”的理解が問題として残ることになります。

#### 2. 待遇上の扱い

ご存知のように、受給表現の使われ方の実態は非常に複雑で、網羅的にあらゆるケースを図示し、解説することは教育文法の立場から見ても適当とは思われませんし、実際不可能でもあります。他の教材を調べてみても、

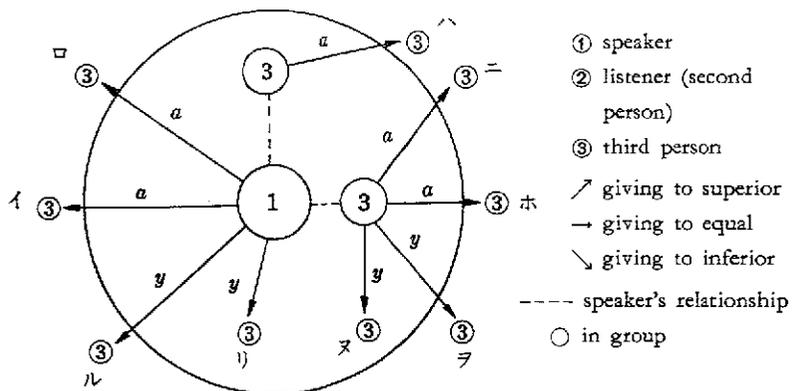
教材によってそれぞれ切り捨てや単純化を行なっています。

LEARN JAPANESE で受給表現の待遇上の規範をどうたてて、どう扱ったかについて、順次、説明(英文)と図を引用しながら、補足的解説を加えていきたいと思います。

The Japanese are rather sensitive in the use of words expressing “giving,” or “receiving.” Different words should be used according to “who-gives-whom” and “who-gets-from-whom.” The differences in these usages come from differences in social status or age, or the degree of respect or politeness that exists between one person who gives and the other who receives.

ここでは、社会的地位、年齢、尊敬または丁寧さの程度の相異を受給表現の使い分けに関わるものとして挙げてあります。もちろんこのほか利害関係の有無のような心理的要因もあって更に複雑な様相をおびているわけですが、たとえば社会的地位だけを例にとっても、日本人とアメリカ人とは大いに受けとめ方を異にしており、この学習だけでも大変なことと言えましょう。従って、この段階でかなりの切り捨てを行なったのも当然と言え言えると思います。ただ、この説明の中で図に使われている “In-group”

Diagram 1A



(注：図のイ、ロ、ハ...の関係をあらわす例文は 99~100 ページにあげてある。)

にかかわる“うち・そと”の考え方について触れなかったのは、片手落ちであったと思います。

次に、具体的に、あげる、やる、くれる、くださるの使い分けの説明と図を見てみます。

*Agemasu, yarimasu, kuremasu*, all mean “give.” There are, however, clear distinctions in their usage.

*Agemasu* and *yarimasu* :

1. When something is given to a third party (See Diagrams 1A & 1B.):

*Agemasu* is used when the speaker or someone other than the speaker gives to a third person unless the recipient is a member of the giver's “in-group” (persons he is closely associated with, such as family, peer group, etc.) or someone who is definitely inferior in age, social status, etc.

*a* = *agemasu*

*y* = *yarimasu*

*k* = *kuremasu*

*ks* = *kudasaimasu*

*s* = *sasbiagemasu*

In-group はいわゆる身内とか、よそに対するうちにあたり、教材によっては In-group とか身内というかわりに家族に限っているものがあります。この教材でも、説明では In-group というこばを使っていますが、drill では家族に限定して使っています。In-group が絶対的な枠ではなく、相対的なものであり、話者自身と聞き手の所属などによってどのようにも広がったりせばまったりするものだということは、一応解説しておく必要がありますが、練習は家族に限る方がこのレベルではよいかと思われま

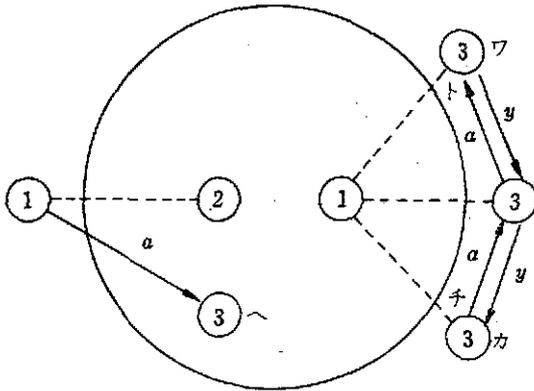
1 A 図は話し手が主語の場合と、話し手の In-group に属する者を主語として話す場合の待遇関係—あげるを使うかやるを使うか—を表わしたもの

です。

図に見る通り、友人、同級生のような同等の者 (Equal) にあげるを使うと規定しています。日本語教材の中では、わずかに ESSENTIAL JAPANESE と NIHONGO NO HANASHIKATA だけが同等の場合にやるを使うとしており、他の教材はすべてあげるになっています。外国人の使う日本語という前提の下に無難なあげるを選び、やるをとらなかったわけですが、こういう所にも、国語教育と異なる日本語教育の特色が出ています。

1 B. Even when the recipient is inferior to the giver in age, social status, etc., if he (the recipient) is a member of the listener's "in-group" and the listener is not inferior to the speaker, *agemasu* is used.

Diagram 1 B



1 B 図は、話し手が聞き手の In-group に属する第三者に与える場合と、話し手の In-group に属さない第三者間で授受が行なわれる場合を示しています。前者では、聞き手に対する敬意から、*inferior* に与えるのでもやるの使用を避けてあげるを使うことを特に明らかにしています。この聞き手に対する敬意は待遇上重要な意味をもっていて、他の待遇表現にも大いにかかわりを持つものです。この点は後出の 2 図にもはっきり表わされてい

ます。

1 A 図, 1 B 図であげるの使用範囲とやるの使用範囲を規定しましたが,  
やるの範囲をまとめて, 次のように書いてあります。

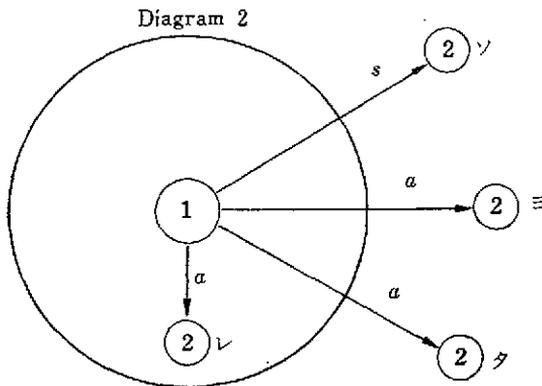
*Yarimasu* is used only when the recipient is a member of the giver's "in-group" and is younger than the giver, or is definitely inferior in age, social status, etc.

次に, 聞き手に与える場合の受給動詞の選択をどうしたか見てみます。

2. When something is given to the listener (See Diagram 2).

At this stage, avoid using *yarimasu* when you are talking about giving something to your listener, even when the recipient is younger or inferior in social status or is a member of your "in-group." When the recipient-listener is a person outside of your "in-group" to whom you want to show deference, you should use *sashiagemasu*.

ここで, at this stage (=この段階では)と断わって, やるを避けた方がよいとしたのは, 話し手が男の場合, 特にタヤレではやるを使うのが一般的であろうと思われませんが, 文体 (speech style) がまだ「です・ます」だけの段階では, 「(あなたに)これをやります」より「(あなたに)これをあげます」の方がふさわしいという判断にたつからです。従って, もっと

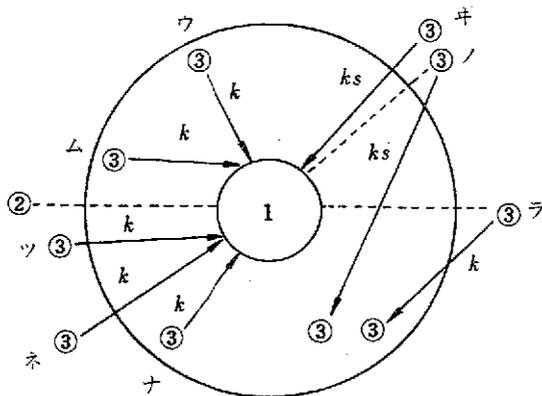


上の段階に来て、「きみにこれをやるよ」という形があってもここでの規範に反するわけではありません。

さて、与えるという意味で、使い方がやる、あげるよりはっきりしている動詞にくれる、くださるがあります。3 図と以下の説明は、そのくれる、くださるを扱っています。

*Kuremasu* and *kudasaimasu* are used when something is given to the speaker or to a member of his “in-group.” *Kuremasu* is used when the giver is equal or inferior in social standing, age, etc., and also *kuremasu* is used even when the giver is older or superior, if the giver is a member of the speaker’s “in-group” and the listener is not. If the giver is someone outside of the “in-group” and older than or superior to the recipient in social standing, etc., *kudasaimasu* is used.

Diagram 3



この図は、話し手の In-group に属する者、たとえば父親とか兄弟に与えられる場合の関係が示されていない点で十分とは言えず、最も修正を要する所だと思います。説明文は一応、話し手が受ける場合と話し手の In-group に属する者が受ける場合について、くれるないしはくださるが使わ

れることを規定しています。

以上、四つの図と説明とで、やる、あげる、さしあげる、くれる、くださる(もらう、いただくについては使い分けがはるかに簡単であるため省略、教材の中でも軽く扱われている)がどのように扱われたかを紹介しました。聞き手が主語である場合などにはまったく触れてありません。これは、聞き手が主語である場合は話し手が主語である場合より敬語的に複雑な面が加わってきて、使い分けが一段とめんどろになることもあって省かれました。初級の段階では多かれ少なかれ、制限なしに全てを学習することはなく、つねに一部分を切り取ってそれを教えるわけですが、受給表現の限定的扱いもその一つの例と言えましょう。

#### IV. おわりに

以上で、LEARN JAPANESE-College Text において、受給表現をどのように扱うかを定めるに至った考え方と、それを実際の試みとして扱ったやり方などについてお話ししました。最後にもう一度その特色を挙げますと、

1. 非常に早い段階で受給表現を取り上げたこと、
2. 早く取り上げるについては、構文上、また表現上の考慮と同時に待遇表現全般へのオリエンテーションとしてその必要を認めたこと、
3. 待遇表現を大きく Speech Level と Speech Style に分け、待遇表現全体の扱いに独自の姿勢を持ったこと、受給表現はその一環であること、
4. 受給表現を主に話し手中心に取り上げたこと、

の四つの点になります。これらの試みは、かなりユニークであり、はっきりした志向のもとに行なわれた点に特色があるわけですが、一方、改訂の余地も多く残されています。たとえば、主に話し手中心の受給関係に重点を置いたため、受給表現全体から見れば部分的取り扱いになっていること。あのレベルではそれでよいとしても、教材全般に涉って考慮すれば、残された部分も別のレベルで正当に拾われなければならなかったと思われ

ます。また、教育文法の立場から図解を試みましたが、未熟な扱いが問題として残ります。教材として考えた場合、説明が詳しく多ければよいというものではありません。この点で教師用マニュアルとしてはともかく学生用としては再整理の必要を感じているしだいです。

以上、LEARN JAPANESE-College Text での受給表現の扱いを、他の教材をも参考にしながら明らかにしてみました。

### [参 考]

I. 図1から3までに挙げられた受給関係の具体例(使用語彙は、このレベルの範囲内に限った。)

○話し手または話し手の In-group を主語とする場合:

- イ. わたくしは友だちに本をあげました。
- ロ. わたくしは先生に本をあげました。
- ハ. 父は山本さんに本をあげました。
- ニ. かないは山本さんに本をあげました。
- ホ. かないは友だちに本をあげました。
- ヘ. わたくしは(あなたの)お子さんに本をあげました。

○第三者間の授受の場合:

- ト. 一郎くんは石井先生に本をあげました。
- チ. あの子どもは一郎くんに本をあげました。

○やるが使える場合:

- リ. わたくしは妹に本をやりました。
- ヌ. 主人はめいに本をやりました。
- ル. わたくしはとなりのうちの子に本をやりました。
- ヲ. 主人はこの子どもに本をやりました。
- ワ. 石井先生は一郎くんに本をやりました。
- カ. 田中さんは子どもたちに本をやりました。

○聞き手に与える場合:

- ヨ. みのるさん, あなたに本をあげましょう。
- タ. かず子ちゃん, あなたに本をあげましょう。
- レ. よしお, (あなたに)本をあげましょう。

○さしあげるを使う場合:

- ソ. 石井先生, 先生に本をさしあげます。

○話し手またはその In-group に与えられる場合:

- ツ. 友だちがわたくしに本をくれました。
- ネ. かず子ちゃんたちがわたくしに本をくれました。
- ナ. 子どもがわたくしに本をくれました。
- ラ. 田中さんが弟に本をくれました。
- ム. 主人がわたくしに本をくれました。
- ウ. 母がわたくしに本をくれました。

○くださるを使う場合:

- キ. 石井先生がわたくしに本をくださいました。
- ノ. 石井先生が子どもたちに本をくださいました。

II. 次に受給表現についての Drill とテスト問題ないしは練習問題を参考までに載せました。教材と試験問題の中に実際に入っているものに補足したものです。

〈Drill の例〉

1. Pattern Drill (Repetition)

わたしの友だちが映画の切符を三枚くれました。  
弟さんと妹さんにこの絵本を一冊ずつあげましょう。  
今晚, 弟たちにやりましょう。

2. Expansion Drill

くれました。……………くれました。  
紙とえんぴつを……………紙とえんぴつをくれました。  
わたしたちに……………わたしたちに紙とえんぴつをくれました。  
山田さんは……………山田さんはわたしたちに紙とえんぴつをくれま

した。

やりました。……………やりました。

おかしを……………おかしをやりました。

子どもたちに……………子どもたちにおかしをやりました。

ぼくは……………ぼくは子どもたちにおかしをやりました。

### 3. Substitution Drill

友だちが雑誌をくれました。

子ども……………子どもが雑誌をくれました。

かない……………かないが雑誌をくれました。

兄……………兄が雑誌をくれました。

わたくしは母からお金をもらいました。

山本さんのおくさん…わたくしは山本さんのおくさんからお金をもら  
いました。

父……………わたくしは父からお金をもらいました。

主人……………わたくしは主人からお金をもらいました。

### 4. Mixed Drill

わたしは山本さんに切符をあげました。

わたしは母に……………わたしは母に切符をあげました。

兄が弟に……………兄が弟に切符をやりました。

父がわたしに……………父がわたしに切符をくれました。

山本さんが父に……………山本さんが父に切符をくれました。

### 5. Response Drill (short answer)

あなたは本をもらいましたか。……………はい、もらいました。

いくおさんはあなたにおかしをあげましたか。……………はい、くれました。

妹さんはわたくしに切符をくれましたか。……………はい、あげました。

### 6. Transformation Drill

あなたにこれをあげましょう。……………あなたにこれをさしあげましょう。

先生がえんぴつをくれました。……先生がえんぴつをくださいました。  
友だちのおとうさんから切符……友だちのおとうさんから切符をいた  
もらいました。 だきました。

#### 7. Transformation Drill

中村さんはブラウンさんに……ブラウンさんは中村さんから本をも  
本をあげました。 らいました。

先生は田中さんにレコード……田中さんは先生からレコードをもら  
をあげました。 いました。

#### 8. Transformation Drill

スミスさんはブラウンさんに切符をあげました。

わたし……スミスさんはわたしに切符をくれました。

子どもたち……スミスさんは子どもたちに切符をやりました。

#### 〈テスト問題の例〉

##### 1. 最も適なことばに○をつけなさい。

田中先生はわたしの子どもにおかしを  $\left\{ \begin{array}{l} \text{さしあげました。} \\ \text{やりました。} \\ \text{くださいました。} \end{array} \right.$

わたしは  $\left\{ \begin{array}{l} \text{父に} \\ \text{弟に} \\ \text{先生に} \end{array} \right.$  お茶をやりました。

##### 2. 与えられた語を全部使って、正しい文を作りなさい。

この、だれ、を、あげます、に、切符、か  
ずつ、を、子どもたち、おかし、みつつ、に、やりましょう

##### 3. “あげ(ます)”, “くれ(ます)”, “やり(ます)”, “もらい(ます)”の いずれかを使って、文を完成させなさい。

犬におかしを\_\_\_\_\_ましょう。

妹さんから何を\_\_\_\_\_ましたか。

父はぼくに自動車を\_\_\_\_\_ました。

4. 次の文中の\_\_\_\_に、助詞“に”，“を”，“から”，“が”のいずれかを入れて正しい文に直さない。

友だち\_\_\_\_雑誌\_\_\_\_二冊くれました。

お子さん\_\_\_\_絵本\_\_\_\_あげましょう。

だれ\_\_\_\_あなた\_\_\_\_あげましたか。

どなた\_\_\_\_くつ\_\_\_\_もらいましたか。

5. まちがいを直さない。

わたしは犬におかしをくれました。

父は先生から本にももらいました。

映画が切符の二枚をあげましょう。

6. 次の答えに合う質問を作りなさい。

いいえ、くれませんでした。

はい、八枚あげました。

山田さんからもらいました。

パンをやりましょう。

7. 次の文の事実は変えずに、指示にしたがって言い直さない。

わたしは父からお金をもらいました。(くれましたを使いなさい。)

8. (受給表現をいくつか含む)話を聞いて質問に答えなさい。

(話は省略)

(質問は、だれがだれにあげたか、だれがだれからもらったかなど)